

学内の国際村で「キャンパス留学」 —多彩なアクティビティを通して、楽しみながら外国語を学ぶ—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）は、学内で外国語や文化を楽しく学ぶことができる国際村“Musashi Communication Village (MCV)”において、海外の文化を英語で学ぶアクティビティを毎月開催しています。

MCVでは、さまざまな国籍の外国人常駐スタッフや学生運営スタッフと、外国語のフリートークを気軽に楽しめるほか、学生たちが異文化への理解を深め、楽しみながら外国語学習が継続できるように、趣向をこらしたアクティビティを提供しています。

コロナ禍で現在も続く留学制限の中、本学では、キャンパス内に学生それぞれの興味関心に対応したさまざまな異文化体験プログラムを用意し、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。

MCVのプログラム

■ マンスリーアクティビティ

外国の文化を体験できる月替わりのプログラムです。外国人スタッフが中心となって企画し、食文化やホリデーシーズンの過ごし方、海外での働き方など、学生が身近に感じられるトピックを中心に、参加体験型のプログラムを行います。アクティビティへの参加は予約制ですが、飛び入り参加も可能。学生が参加しやすいようにと、ランチタイムを利用して行なっています。

2022年度からは、新たにミャンマー・イタリア・フィリピンの外国人スタッフが加わり、より国際色豊かなプログラムを実施しています。

・New Year festival in Bangladesh

バングラデシュ出身のスタッフが、ベンガル暦の新年のお祝い“New Year festival”について紹介した後、実際のフェスティバルで使用するものを工作し、MCVを装飾します。5月に新年のイベントを実施することで、学生も日本にいながら文化の違いを体感することができます。

・Pistahan

フィリピンで年に1度行われる“Pistahan”という文化フェスティバルについて学びます。当日はPistahanについてレクチャー形式で学ぶだけでなく、ドキュメンタリーを観たり、MCVをフェスティバル風に飾りつけしたりと、キャンパス内で楽しみながらフィリピンの文化を学びます。



バングラデシュやインドで食べられている米粉のお菓子 Pitha（ピタ）について話す外国人スタッフ

◇MCVを利用する学生の声

高校では英文法や英単語中心の勉強だったので、MCVでネイティブとの会話を通して自分の英会話力の低さを痛感しました。楽しみながら学べるアクティビティに参加するようになり、発音は格段に良くなったと感じています。夏季休暇を利用するEnglish Summer Schoolや、武蔵大学に在籍しながら国内留学できるテンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）での単位互換プログラムに興味があるので、これからも目標に向けてMCVで英語の運用能力を高めていきたいです。（人文学部 加藤 愛理さん）

—本件に関するお問い合わせ先—

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp

2022年4月17日、武蔵学園は創立100周年を迎えました



■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 德行

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1